

Kelvin W. Willoughby 著

『Technology Choice – A Critique of the Appropriate Technology
Movement』 1990 年刊

本書は、適正技術運動が曲がり角にさしかかりつつあった 1990 年の時点において、それまでの適正技術に関する議論と活動を総括し、その後の展開のために必要とされるフレームワークを構築しようとした意欲的な著作である。

第 1 部では、技術選択の問題は技術研究・技術政策の要であるが、適正技術は、まさに技術選択のための枠組みを与えるものであるという、著者の基本的な立場が表明される。また、それまでの適正技術に関連する概念や用語法を整理し、適正技術を、「技術が、(適用される場面の)心理社会的(psychosocial)ならびに生物物理的(biophysical)コンテクストに適合的であることをめざす技術実践の様式」と定義している。

第 2 部は、それまでの多様な適正技術関連の議論や活動に関する文献的なレビューであり、まずシュマッハーの中間技術にかかわる思想の形成過程や ITDG(中間技術開発グループ)の創設とその後の活動の展開を述べた後、南の国々の適正技術と、北の国々の適正技術のそれぞれについて、適正技術関連の動きの分類を試みる。南については、小産業、ベーシックニーズと代替的開発、村落技術、国際的平等、国内的平等と自立、食物生産と健康等のカテゴリーが、北については、技術社会への反応、人間的技術、環境主義、ラジカルテクノロジーの実践、エネルギーパス等のカテゴリーが採られ、それぞれの流れが概説されている。

第 3 部は、本書の中核をなすといえる部分で、まず、これまでの適正技術に関する批判的な論点を網羅的にレビューする。非効率、不経済、劣等な技術、反成長主義、技術決定論などとする批判は、適正技術に関する誤った認識にもとづくものとして退けるが、概念があいまいである、普及には政治的な制約がある、といった批判には当たっているところがあるとす。そして、適正技術に関する、社会に広く受け入れられるフォーマルな理論が欠けていることが、混乱と誤解を招く元になっていると指摘する。

それらの考察にもとづき、筆者は、適正技術に関する統合的な枠組み(Integrated Framework)を提案する。それは、適正技術を、技術－経験(Technical-Empirical)、社会－政治(Socio-Political)、倫理－個人(Ethical-Personal)の 3 つの次元が調和的に統合された技術選択を行うような、技術的実践の様式としてとらえるものである。この枠組みによれば、先進国にも、開発途上国にも、中進国にも通じる、具体的な技術選択のガイドラインをつくりやすく、それは適正技術の本格的普及のよりどころとなりうることが主張されている。

近代科学技術の体系は、まるで他の選択を許さないかのように社会に浸透していく面があるが、実は与えられた状況の中で所定の目的を達するための技術選択は多様であり、さまざまな要因をふまえて人々が主体的に技術を選択していく可能性の中に、適正技術の意義を見出しているといえる。しかし、この本が出た後の社会は、近代科学技術が他の技術選択を凌駕していく方向に動いていくのである。

(中西良輔/田中直)

[書誌データ]

Kelvin W. Willoughby. *Technology choice – A critique of the Appropriate Technology Movement*. Westview Press, 1990, Intermediate Technology Publications, 1990

[目次]

Preface

Part One: Conceptual Groundwork

1. Introduction: The Concept of Technology Choice
2. Technological Semantics
3. Appropriate Technology as a Social Movement

Part Two: The Appropriate Technology Movement

4. Schumacher and Intermediate Technology: Foundation
5. Schumacher and Intermediate Technology: Development
6. Appropriate Technology in the South
7. Appropriate Technology in the North
8. Emerging International Trends

Part Three: Prospects for Technology Choice

9. Criticism of Appropriate Technology
10. An Integrated Framework
11. A Review of Plausible Criticisms
12. Facing the Future